

## 「地域中小企業応援ファンド」第一号案件の概要

### あおもりクリエイティブファンド（チャレンジ企業応援型）

#### < 概要 >

- ・ ファンド総額 : 22 億円 (うち中小機構 10 億円)
- ・ 無限責任組合員: フューチャーベンチャーキャピタル(株)

#### < 特徴 >

- ・ 電気機械・精密機械等の先端産業、食品・木材等の地場産業、情報関連産業などの地元中小企業を支援。
- ・ 財団法人 21 あおもり産業総合支援センターを中心に、県、商工会議所、大学等が一丸となり、オール青森による産学官のハンズオン支援（案件紹介、経営指導、販売支援等）体制を構築。

### にいがた産業夢おこし基金（スタートアップ型）

#### < 概要 >

- ・ ファンド規模 : 125 億円 (うち中小機構 100 億円)

#### < 特徴 >

- ・ 県の政策目標である「産業の高付加価値化」を実現するため、特に技術開発に重点を置き、以下の 2 タイプの助成事業を実施。
  - わざづくり助成事業: 中小企業の新技術開発への助成
  - 地域技術基盤高度化支援事業: 公設試、大学、中小企業の連携による技術開発への助成。成果は産業界へ移転。

### おおさか地域創造ファンド（スタートアップ型）

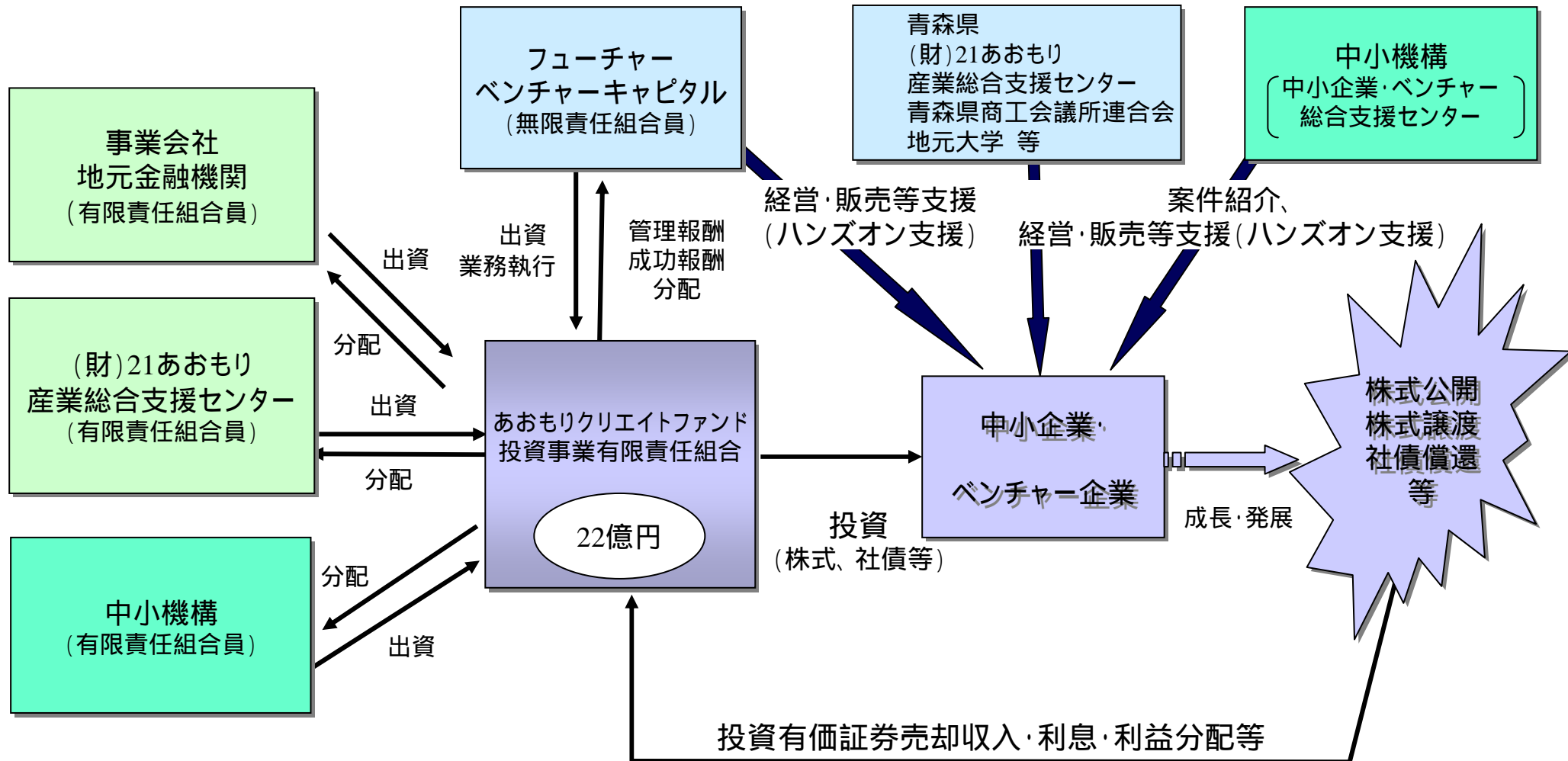
#### < 概要 >

- ・ ファンド規模: 200 億円 (うち中小機構 160 億円)

#### < 特徴 >

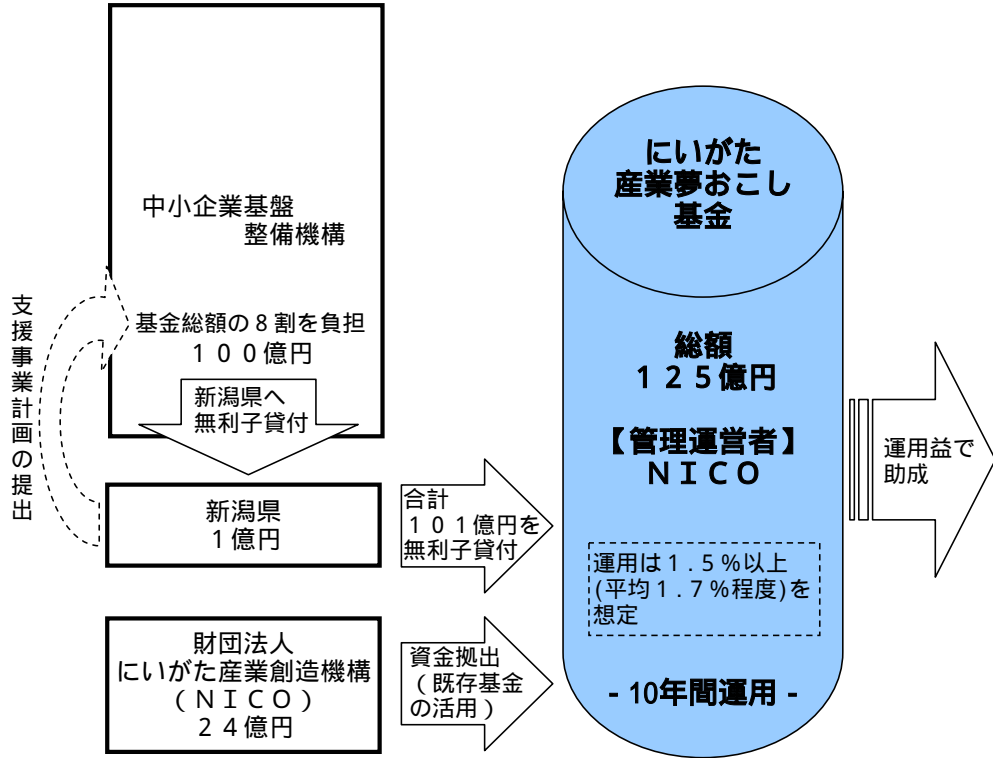
- ・ 府内を 9 ブロックに分割し、ブロックごとに市町村、商工会等の意見を取り入れた「地域活性化プラン」を策定。これにより、各地の特徴、ニーズを反映し、地域による主体的な取組を促進。

# あおもりクリエイティブファンドのスキーム図



# << にいがた産業夢おこし基金 スキーム図 >>

## 【基金の造成】

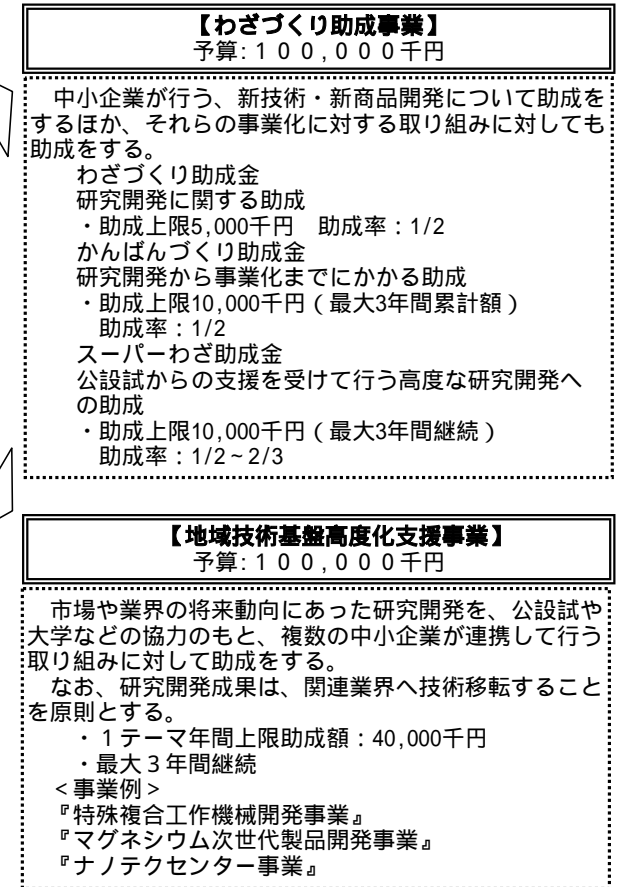


## 【運用益で助成事業を実施】

### < 目的 >

技術開発支援を中心とした中小企業の経営革新促進により、新潟県「夢おこし」政策プランの政策目標のひとつである「産業の高付加価値化」の実現を図る

平成19年度実施事業は以下のとおり



基金の管理運営主体であるNICOが開催する

助成対象の選定基準...次の項目についての適合性を総合的に審査

【わざづくり助成事業】  
計画の実現性  
既存技術・商品との競争力  
市場性  
技術開発の方向性  
技術・アイデアの水準  
経営革新計画の実現性  
試験研究機関との連携状況

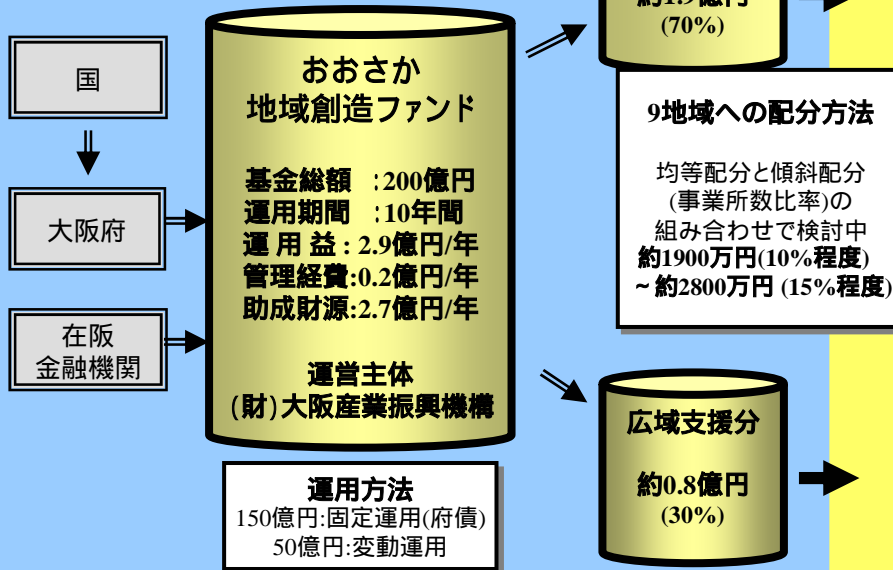
【地域技術基盤高度化支援事業】  
地域中小企業への寄与度  
既存技術・商品との競争力  
市場性  
技術開発（適用）の方向性  
技術の水準  
試験研究機関や大学・専門学校等との連携状況

# おおさか地域創造ファンドの概要 ~地域のさまざまな資源を活用した新事業創出~

**目的** 活力とにぎわいあふれる地域づくりを目指して「おおさか地域創造ファンド」を設置し、技術や人材、歴史、伝統など地域の資源を活かした、地域が主体となった新しい事業を創出し、産業振興をはじめ地域の活性化につなげる。

## 事業概要

公民連携による基金を組成し、  
運用益で地域活性化の取り組みを支援



### 推進体制~ファンド事業審査委員会~

(構成) 学識、中小機構、府、デザイン等  
専門家、PM等  
(審議事項) 事業計画(年度)の承認  
事業報告(年度)の承認  
助成対象事業の承認

## 9つの地域毎に地域活性化事業を推進

9地域・中央、豊能、三島、北大阪、北河内、中河内、南河内、泉北、泉南

地域中小企業支援センター毎に市町村、  
商工会・商工会議所の参画を得た「**地域  
活性化推進協議会**」を設置。  
地域毎に「**地域活性化プラン**」を策定。

「**地域活性化推進協議会**」において、助成  
対象事業を公募、選定、経営サポートを  
実施。選定に際しては、「**助成事業選定委  
員会**」を設置。

### 【助成対象事業】

技術や人材、歴史、伝統など地域の資源を活用した新しい事業であり、地域の中小企業に広く波及効果を与えるなど、地域活性化に資する事業。(地域活性化プランに定められた事業)

### (事業例)

製品のブランド化・高付加価値化を通じた地場産業の振興と地域のイメージづくり  
地域の大学と中小企業との連携による新技術・新事業の創出  
地域の歴史、文化資源と地場産品を組み合わせた観光物産の開発  
シニアや女性など地域人材による創業やコミュニティ活性化事業 など

### (事業主体)

中小企業又は中小企業グループ  
自ら事業を行う中小企業以外の者(関係団体、NPO法人等)

### (助成額・助成率)

助成額1000万円(上限)、助成率3分の2以内

**選定基準**  
市場性 成長性  
革新性 実現可能性  
地域活性化への波及効果

## 地域の取り組みを高度・専門的にサポート

**創業モデル(新テイクオフ21)・・公募の上、「ファンド事業審査委員会」で選定。**  
革新性、競争優位性、広域性等が認められる創業モデル。助成額500万円(上限)、助成率2分の1。  
「起業家育成」「新分野育成」は特例として、助成額・助成率を高上げ。

**広域プロジェクトモデル・・「地域活性化推進協議会」から推薦。**  
地域を越える広域的な事業:助成額1000万円(上限)、助成率3分の2  
府として重点的に支援すべき事業:助成額3000万円(上限)、助成率3分の2

**高度専門サポート事業**  
助成事業等に対する高度専門的な観点からの支援事業。助成額3000万円(上限)、助成率10分の10。  
(事業例) 専門家によるアドバイス事業など

## 「地域中小企業応援ファンド」に対する自治体からの反応

地域中小企業応援ファンドの第一号案件として採択された青森県、新潟県、大阪府からの、当該事業に対する反応、評価の概要は以下の通り。

### **1 . 地域が一丸となった新たな支援モデル**

- 従来の支援者（自治体、中小機構等の公的機関）に加え、地元金融機関や企業等も加わり、地域が一丸となって地元中小企業を支援するという機運が醸成。
- このようなファンドを核とした地域を上げての支援ネットワークの構築により、支援効果の最大化が期待される。

### **2 . 地域の実情に即した、柔軟な設計が可能**

- 従来の国の支援制度等と異なり、自治体サイドで柔軟な助成スキームを構築できることから、地域の実情や創意工夫を反映することが可能となった。

### **3 . 継続的かつタイムリーな支援が可能**

- 単年度予算の制約により、自治体財政が厳しい中、継続的な予算枠を確保することが困難であったが、ファンド形式となったことにより、10年間の安定的な支援が可能となった。
- また、春頃の公募、夏頃の交付決定、冬頃の確定検査といった単年度予算の制約から解放されることにより、事業者のニーズに応じたタイムリーな支援が可能となった。

以上

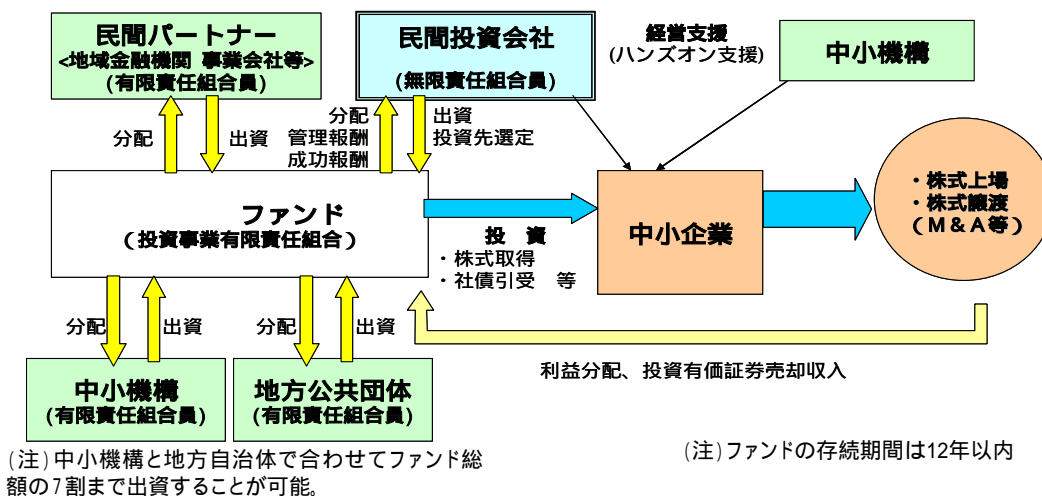
# 地域中小企業応援ファンドのスキーム

## チャレンジ企業応援型

中小機構の出資機能を活用し組合形式のファンドを組成  
成長資金の供給や経営支援を実施

- ・中小機構と、地域金融機関、自治体等がファンド(投資事業有限責任組合)を組成し、その組合が、株式公開などを指向する地域中小企業に対して投資を行う。
- ・組合では、いわゆるプロの目利き(無限責任組合員:いわゆるファンドマネージャー)が、資金供給に併せて投資先企業への経営支援。また、中小機構も、専門家の派遣等により経営支援を実施。

### チャレンジ企業応援型ファンドの事業スキーム



## スタート・アップ応援型

中小機構の融資機能を活用して都道府県等とファンドを組成  
新たな事業の「種」の発掘を支援

- ・中小機構が都道府県に資金を貸付け、都道府県が中小機構からの貸付金と合わせてファンドに資金を貸付け、運用益により助成。
- ・助成内容は、全国画一的に制度を設計するのではなく、都道府県の特徴と強みを活かし、知恵と工夫を駆使して、都道府県が地域における具体的な支援内容を決定。

### スタート・アップ応援型ファンドのスキーム

